

マゴイ増殖技術開発研究

久米 弘人

◆背景・目的

KHVによって減少したマゴイ資源を回復させるため、種苗生産放流を行った。また、コイ仔稚魚の生息場所を把握するため、産卵場所であるヨシ帯周辺でコイ仔稚魚の採捕調査を行った。

◆成果の内容・特徴

- ・ DNA判別により野生型コイと判断された親魚を用いて種苗生産を行った。5/25にALC標識を施したふ化仔魚14万5千尾、6/21に前記とは異なるALC標識を施した2cm稚魚15万7千尾を西の湖に放流した。放流前にKHV検査を実施し、KHV陰性であった。
- ・ 湖北町海老江のヨシ帯周辺でコイ仔稚魚の採捕調査を行うため、ヨシ帯の中ではタモ網を用いて、ヨシ帯の前面には小型定置網を設置して、5/29日から7/26日までの間に計7回実施した。タモ網による採捕では6/4と6/13日に採捕され、小型定置網により採捕は6/14に2尾(全長27.7~28.9mm)、6/21に4尾(全長27.0~31.2mm)、6/27に9尾(全長35.9~53.5mm)採捕されたが、その後は採捕されなかった。コイ稚魚がヨシ帯周辺に生息するのは全長5cm程度までの時期であると考えられた。
- ・ 2006年度に地下水飼育で生産したKHVフリーコイを2006年9月から北湖水を取水できる当场と南湖水を取水できる琵琶湖栽培漁業センターでそれぞれ飼育をした。当场の地下水で飼育し続けたものを対照とし、それぞれ30個体の血清を採取し、抗体価を測定した。北湖水、南湖水で飼育したコイは地下水飼育コイと比べて抗体価が上昇している個体があり、湖水による飼育はKHVに感染する可能性のあることが示唆された。(図1~3)

◆成果の活用・留意点

- ・ コイ種苗の放流には稚魚期まではヨシ帯周辺に放流することが望ましい。
- ・ 放流したKHVフリーコイのモニタリング調査を実施する必要がある。

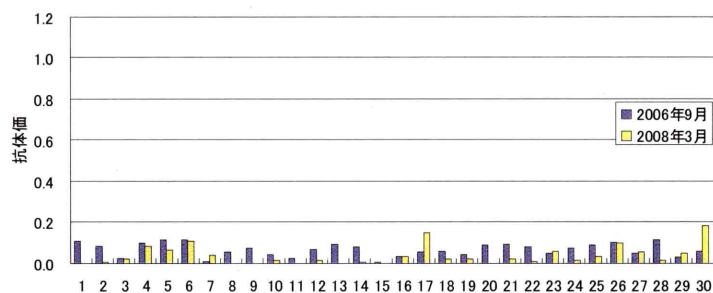


図1. 地下水飼育コイの抗体価

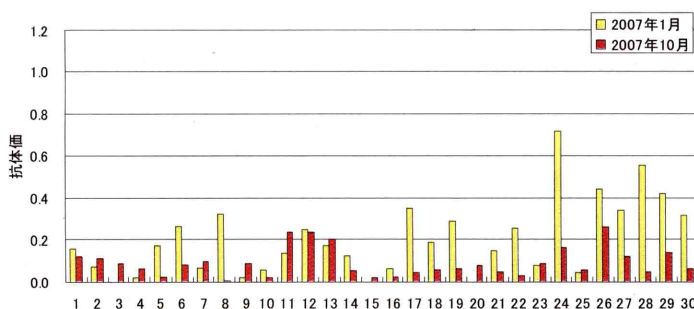


図2. 北湖水飼育コイの抗体価

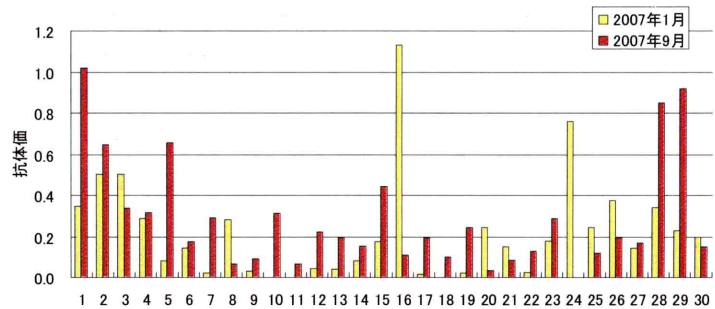


図3. 南湖水飼育コイの抗体価